関西自然保護機構会報 18(1)：71－72，1996

書　評

植物からのＳＯＳ！－愛知県の絶滅危惧植物－

レッドデータブック近畿研究会　梅　原　　徹

「KONCに書評を書いたときの，私が考えたレッドデータブック地方版はおよそこのようなものです。」とのコメントを添えて，芹沢俊介氏から表記の図書を贈られた。

本書はレッドデータブック愛知県版として，愛知県植物誌調査会から1996年３月に発行されたものである。この会はKONC発行の植物の近畿版レッドデータブックの書評（芹沢，1995a）をしていただいた芹沢俊介氏のおられる愛知教育大学生物学教室を中心に，愛知県の植物の現状を標本資料にもとづいて正確に記録することを目的に，1992年に発足したNGOである。

最近になって神奈川県，兵庫県，三重県や広島県などで地方版レッドデータブックがあいついで刊行され，刊行間近や，企画の進んでいる府県もいくつかある。近畿版同様，どこでも全国版だけでは地域の自然の個性を保護できないとの思いが刊行の動機であるようだ。なかには「隣の県が出したからうちも」，などというところもあるそうだが，動機はどうあれ，一般の意識を高めてもらうにはできたほうがよいので，これは歓迎すべき傾向である。

さて愛知版だが，まずタイトルが目をひく。SOSは Save Our Species の略だが，上手なネイミングだとおもう。タイトル下の写真は地域の固有種，ミカワバイケイソウの個体群である。

構成は最初にカラー図版が32ページあり，自然林，二次林，草地，湿地など，環境ごとに景観と絶滅が危ぶまれる種の写真がある。写真はおおむね美しく，植物のほとんどは証拠標本をともなっており，それが標本番号で示されている点が，写真に単なる口絵以上の資料価値を持たせている。これは芹沢氏の近著，「人里の自然」（芹沢，1995b）でも使われた手法だが，なかなか簡単に真似できないことである。

次の“概説”は以下の６項目からなる。

①なぜ植物を保護するのか
②愛知県の自然環境
③保護を要する植物にはどのようなものがあるか
④絶滅危惧植物の生育環境と植物を危機的な状況に追い込んでいる原因
⑤植物を保護するにはどうしたらよいか
⑥愛知県で特に保護を要する植物群落

いずれも要点が率直かつ平易に語られており，①，④や⑤は愛知県にかぎらず，このまま全国に通用する内容である。ところどころに楽しいイラストやコラムも挟まれている。コラムには標本にもとづく愛知県のフロラの解明に貢献された故，鳥居喜一氏の紹介や植物標本の作り方といった，一般的なレッドデータブックにはおよそ含まれない項目がならんでいる。しかし，そもそもレッドデータブックに定型があるわけではないし，保護の基礎として，標本の蓄積がなにより重要であるにもかかわらず，一部の自然保護論者には採集はすべて悪という風潮も根強いことだから，標本に対する理解を深めてもらうためにも，好ましい試みであると思う。

レッドデータブックの本体である“要保護種の現状”には，もっとも多くのページがさかれている。350種の個々について，最初に絶滅寸前，危

急などのランキングを全国版の評価と対比させて示し，危機に追いやられている理由が書かれている。次いで生育環境，全国や愛知県での分布状況や傾向などが，くわしく述べられている。1ページあたり4～5種が解説されていることからも，情報の多さが理解されよう。熟読すれば，分類学的に意味のある情報がたくさん盛り込まれていることにも気づくだろう。また，とりあげられた350種以外にも，愛知県では分布の稀な117種が，付記種として関連する種の末尾に簡単に解説されている。

最後に関連図書の紹介と，和名索引がある。

以上のような内容をもつ愛知県のレッドデータブックだが，地方版のレッドデータブックとしては現在のところ最高峰といえる。芹沢（1995a）は近畿版の課題として，絶滅から稀少にいたる種別のカテゴリーの記載，危機の要因の記載や一般向けの写真版などの配慮がのぞましいことをあげたが，もちろんそうした点はすべてカバーされている。内容的には地方版がもつべき要素を全部含んでいるといえるだろう。

若干の注文をつけさせてもらえば，まず，土地感のある人たちの利用が多いだろうから，不要なのかもしれないが，58の調査区画がわかる地図がほしかった。次に，近畿版のように，分布と生育環境をまとめた一覧表がほしい。もちろん県内の分布はまだまだ不明の点も多いだろうし，公表できない場合もあろうから，表としての統一を欠くのはやむを得ないものとして整理してほしかった。種別の記載を表にくみかえるだけだから，たいした手間はかかるまい。また，付記種についても一覧できるようにしてほしかった。付記といえども載ってしまえば気になる（気にされる）はずで，それならもっと存在を主張してもよかったのではないだろうか。

レッドデータブックには読み物としての側面と，安直に利用できるリストとしての側面がバランスよく兼ねそなえられるのがよいと思う。本書は読み物としての色合いが濃いが，これはこれで統一はとれている。

レッドデータブックの基礎となるのは標本にもとづく up to date な植物誌である。絶滅に瀕する植物の分母がはっきりしないのは，レッドデータブックを編集する側としては，常にひっかかる点である。愛知県植物誌調査会では2～3年後から，標本にもとづく植物誌を順次刊行の予定という。そうした活動の中から，レッドデータブックの見直しも進んでゆく。近畿版も5年後の改訂をめざして活動を再開した。近畿全府県の up to date な植物誌など，およそ我々の手に余るが，方向としてはそちらをめざしたいと思う。

本書は一般書店では入手できない。下記に郵便振替で2,500円（送料はサービス）送金すれば，直接送付される。

振替　00820－7－20001　愛知県植物誌調査会

引用文献

芹沢俊介．1995a．書評「近畿地方の保護上重要な植物－レッドデータブック近畿」を読んで．関西自然保護機構会報，17(1)：71－74.

————．1995b．エコロジーガイド人里の自然．196pp．保育社.